

サルコイドーシス

講演会・療養相談会を開催いたしました

- 1 日時 平成 24 年 10 月 27 日 (土) 13 : 30 ~ 16 : 00
- 2 場所 サンシップとやま 501 号室
- 3 対象者 患者及び家族、支援関係者
- 4 内容

① 講演会「サルコイドーシスについて」

講師：富山大学附属病院呼吸器内科診療教授 松井 祥子氏

② 療養相談会

助言者：富山大学附属病院呼吸器内科診療教授 松井 祥子氏

—質問と先生のコメント—

- ぶどう膜炎で月 2 回眼内注射の治療中。目の治療はこの先も永遠に続けなければならないのか。

月 2 回で痛みのある治療であるが、この先永久に続くことはないと思う。状態にもよるが、治療間隔は延びていくこともあるので、あきらめないで治療して欲しい。

- 唾液の量が一定しない。

唾液腺に肉芽腫ができることがある。唾液をだす工夫（お茶を飲む、梅干飴をなめる等）をする。だめな場合は人工唾液もある。

- フルメトロンを点眼しているが最近、肺の肉芽腫が少し大きくなったといわれる。副腎皮質の影響はあるか。

局所療法（目薬）で全身に影響を及ぼすことは考えにくい。サルコイドーシスのためと考えられる。

- 風邪をひくと肺が真っ白になる。風邪をひく度に主治医までいかなければならないか、それとも近医でよいのか

度々、感染を起こすのであれば主治医から病状経過を家庭医に報告するなど、病診連携をしてもらったほうがよい。

- 主治医はこの病気はストレスと関係ないと言われたのだが、どうなのか

ストレスとは関係ある。免疫が関係する病気なのでストレスは病状に影響する。「ない」といわれたのは「ストレスが発症原因とはならない」という意味だと思う。言葉の捉え方の違いでないか。

- 腎結石があり、昨日も石が出た。まだいくつも腎臓に石がある。高カルシウム血症は結石に悪いと思うが骨粗鬆症もあり牛乳、小魚などを食べている。摂取しないほうがいいのか

結石ができやすい体質なのだろう。ひじきやミルクなど、食品でとるカルシウムは過剰に摂取しない限り大丈夫。サプリメント類はやめる。

- 腸穿孔し手術したところ、ステロイドの副作用で腸がもろくなっているとされた。ステロイドを止めたなら再度、下肢に肉芽腫ができ始めた。どちらをとるべきか

下肢の肉芽腫はステロイドの局所治療が可能である。重要臓器の障害が無い限り、内服はしないほうがよい。

➤ **筋肉の硬直はサルコイドーシスの症状かプレドニンの副作用か**

プレドニンを服用していると筋肉の疲労の一つの症状としてでることがある。サルコイドーシスでは、筋肉内に結節ができる事があるが、硬直などの症状にはならない。硬直は、健常人でもでることがあり、脱水や電解質異常も要因となってくる。予防として、筋肉に過剰な負担をかけないこと、水分をとり、血行をよくすることが大事である

➤ **バセドウ病もあり。疲れやすくストレスもある。治療はこの先も続くのか**

甲状腺にも肉芽腫ができ、バセドウ病や慢性甲状腺炎を合併しやすい。プレドニンを服用するとよくなるが、甲状腺ホルモン剤も同時に服用することが多い。ホルモン剤は血中濃度を見ながら調節する。症状が変化した場合、病気本来の症状かホルモン剤のためか分かりにくいいため、慎重に経過をみながら減量し、長期間内服する人が多い。適量のホルモン剤とプレドニンとを長く一緒に飲んでも問題はない。

➤ **1~2年前から咳が間欠的に出始めたが治療法はないのか**

咳が慢性化している。サルコイドーシスの場合、咳止めなどの対症療法で止まらないようであればステロイド吸入、それでも無理ならプレドニンを増量するなどの方法がある。

➤ **サルコイドーシスと関節痛は関係あるのか**

関節炎はサルコイドーシスとしてはまれで急性期にでることはあるが慢性期は少ない。ガリウムシンチやX線検査などで、関節を含めた全身の評価など受けてみてはどうか。

➤ **ツベルクリン陰性は大丈夫か**

ツベルクリン陽性とは、現在や過去の結核菌の感染に対して、リンパ球という血液細胞が覚えているかどうかを見る免疫反応の検査である。サルコイドーシスの場合、一般的には、その免疫反応が「陰性」になるという、通常とは異なった免疫反応をもつことが特徴の一つである。